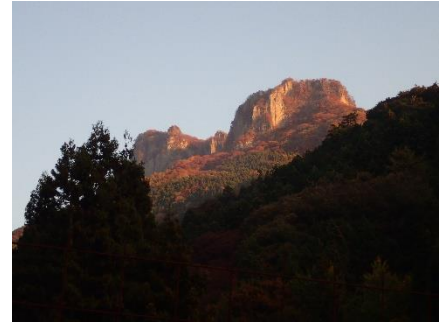


西上州：立岩・経塚山（荒船山）

- ◆日程 2023年11月3日（金祝）
- ◆メンバー L：IZ、他1名
- ◆天候 晴れ



西上州というエリアはひっそりとしていて全般的にアクセスも悪くよほど好きな人しか来ないかんじがする。その中であって荒船山は船のような山容が遠くからも視認しやすい有名な山。立岩は里の中に岩がどんと聳え、「西上州のドロミテ」といわれる象徴的な存在だ。

立岩はさすがに切り立った岩だけあって、上がるにつれ急登直登となる。直下はザレたルンゼで落石注意（他の登山者はいなかったが）。大汗をかくが標高がさほど高くないので体を冷やすこともない。西立岩山頂から北を見ると視線が荒船の頭尾方向に重なるため艦岩の形は見えない。高岩、兜岩、ローソク岩と西上州らしい景観に大満足。南～西側には奥秩父に八ヶ岳も見える。そこからは急斜面を下り、岩（ジャンダルム）を登り返したり巻いたり、プチ縦走気分。紅葉真っ盛りのどピーカンでも前にも後ろにも人はいない本当に静かなところだ。

経塚山（荒船山の正式名称）に至り艦岩へ、船の甲板部分を歩く。人が多く人気ぶりがうかがえる。平らで広くて野球でもできそうで、岩の上とは思えない。栃木県足尾の庚申山に行った時も、岩場をのぼり切った上に森が広がってすごく不思議な気持ちになったのを思い出した。

帰路は星尾峠から沢沿いルート、また人の気配がなくなる。山と高原地図で実線表記ではあるが通る人も少ないようで踏み跡が薄いうえに落ち葉が積もり、とても迷いやすく地図読みにもってこいだ。わたしは25000図とコンパス、YAMAPユーザーの夫はスマホ、と業務分担して下っていく。斜面の形をみて、次は尾根に乗るんだろう、徐々に左に曲がっていくだろう、枝沢を渡るんだなとあたりを付けながら行くのはわくわくする。GPSでリアルタイムに答え合わせができるのもよいものだ（わたしは絶滅危惧種のガラケー使いで、車にナビもついていないので新鮮）。沢全体が広葉樹に包まれていて、とにかく木漏れ日が明るく見渡す限り華やかだ。「いいところだねえ」「ここにテント張りたいねえ」を連発しながら、多少道がわからなくても不安が募ることはなく、終始楽しく降りてきた。

低山でもつないで一日歩くことで充実感がある。つぎは赤久縄（あかぐな）山、鹿岳（かなたけ）あたりを狙っている。立岩の写真が表紙に使われている「関東百名山」（山と溪谷社）は、味のある里山好きの方に超おススメ！（記：IZ）

CT：線が滝登山口 7:00 - 立岩 8:30 - 経塚山 10:45 - 艦岩 11:30/12:30

-星尾峠 13:10 - 線が滝登山口 15:20

